

2023 年 5 月 30 日

選挙管理委員会
委員長 荒蒔 義嗣 殿

立候補者氏名 松丸 議将 印



意 見 書

「つねに、もう一度。ともに、もう一步。」

【はじめに】

ほんの僅かな言葉が人の意識を変え、ほんの僅かな行動が人の未来を変えることを私は知っています。

幸運なことに JC での初めての出会いが、何ごと俯瞰的に見て、すべてを分かった気になっていた私を変えてくれました。何を成し遂げた訳でもない青年に、その先輩は、そして JC は期待してくれました。それが私の JC の始まりです。今では分かりますが、その先輩は本気で私に期待していたわけではありません。その先輩が信じていたのは、そんな青年でも変えることができる JC だったのです。

人は、不思議なことに、誰かに期待されるだけで意識が変わります。そして誰かに期待されているという意識をもつだけで行動が変わります。そしてその僅かな行動の積み重ねが未来を変えます。周囲の人と周囲の環境をより良いものに変えるのは、一見難しく思えますが、実は誰にでもできることの積み重ねなのです。見返りを求めず、打算的ではない期待を周囲に伝えましょう。その期待で未来を変えた一人が、また誰かの未来を変えます。あなたの一見取るに足らないように思える僅かな行動が、まだ見ぬ誰かの、そして地域の未来を変えるのです。

【茨城ブロック協議会のミッション】

JCI Mission に「発展と成長の機会を提供する」こと、そして「まちをより良いものにする運動を創ることができるようになる」と定義されているように、地域に根差す LOM には、運動を展開することで、地域の青年に発展と成長の機会を提供するプラットフォームとしての役割があります。会員数が減りどれだけ組織力が低下しても、在籍年数が短い会員が増え今まで当たり前だったことが当たり前でなくなっても、情熱を絶やさず、様々な工夫をこらし、LOM はこの役割をまっとうしなければなりません。だからこそ、LOM にとって最も身近な支援組織であり、LOM の運動を最大化することを使命とする茨城ブロック協議会は、「発展と成長の機会を提供することのできる人財を育成する」こと、そして、ただ運動の指針を提示するだけでなく、歯を食いしばってこの役割を担っている LOM に積極的に寄り添わなければなりません。

2022 年度より茨城ブロック協議会は、より踏み込んだ形での LOM 支援を行っております。この試みは、間違いなく LOM の持続可能性を高めることに成功しました。しかしながら、茨城ブロック内の会員のうち約 65%の会員が 5 年以内に卒業を迎える現状を鑑みると、今以上に多くの LOM が支援を必要とする状況となることが予測されます。事業の実施が困難になり、発展と成長の機会を提供できなくなることを未然に防ぐためには、事業構築支援を含めたより幅広い支援が必要であり、そしてその支援を実現するには、この 2 年間の成果をしっかりと評価並びに検証した上で、組織として体系化していく必要があります。私たちがプラットフォームとしての役割をしっかりとまっとうすれば、必ず共感するアクティブシチズンが生まれ、そのアクティブシチズンが、茨城ブロック内すべての LOM をより良い運動を展開する組織へと昇華してくれるはずです。

【より多くの機会を、より身近な形で】

皆さんの JC に入会した動機や目的は何でしょうか。恥ずかしながら私は、ただ「知り合いが増えればいいかな」程度のものでした。皆さんの中にも、入会当初の動機と現在の動機が異なる方がいるかと思います。それが何かをきっかけに必死に JC 運動に取り組むようになり、少しずつ価値観が変わり、いつの間にか、誰かのために役立ちたい、まちをより良いものにしたいと、利己的な動機に社会的使命が加わるようになったのではないのでしょうか。JC は人の価値観を変え、その動機や目的すら変えることのできる団体です。しかし、私のように JC に対し後ろ向きで期待も抱かない青年がその変化を迎えるには、偶然的ともいえるきっかけとなる原体験が必要となります。

2023 年に実施した LOM ヒアリング調査の結果によると、ほとんどすべての LOM がアカデミー会員の割合の増加と、それに伴うその育成に課題意識をもっています。2017 年から取り組んでいるアカデミー合宿をはじめ、これまでも茨城ブロック協議会はアカデミーの育成に力を入れてきました。そのスケールメリットを活かした機会の提供と県内各地より集う同志との原体験を通じた友情は、LOM では経験させ難いものであり、今では多くの LOM にとってアカデミー育成年間計画の一役を

担っています。しかし、茨城ブロック内の会員の約半数がアカデミー会員となった現在、より多くのアカデミー会員にきっかけとなる原体験を提供する必要があります。JC に少なからず期待感をもち、自身の人生やまちを変えるために、未知の体験と向き合う勇気と情熱を持ち合わせているアカデミー会員を、LOM の未来を担う人財に変えるこれまでの事業を踏襲しつつ、一步踏み出す動機をまだ持ち合わせていない偶然的なきっかけが必要な人財に対し、きっかけとなるような発展と成長の機会を提供することが求められています。エリアという、より身近で地域性や LOM の現状及び課題が相似的な環境でアカデミー育成事業を展開することで、参加者の心理的及び時間的障壁、事業の人数的制約を取り除くとともに、エリア毎の実情にあった細やかな事業が実施可能となります。0 から 1 となるきっかけを多く創出し、1 から 2、2 から 3 を求めるアクティブな会員を増やしていきましょう。そして地域をリードする新たな人財と共に、LOM の運動を最大化していきましょう。

【共感の連鎖が生む拡大】

JC が設立された当初から現在に至るまで会員拡大運動は続いています。しかしながら、新日本の再建を青年の責務と捉え、その実現のために一人でも多くの新たな力を求めた「会員拡大運動」が、いつしか組織が存続し続けるための「会員拡大」になっているように思えます。もちろん JC は 40 歳を迎える年になると自動的に卒業となる組織ですので、常に新たな仲間を増やし続けなければならないことは明白なことです。しかし、そんな理由でメンバーに、そして入会候補者に共感を生むことができるでしょうか。「地域をより良いものにしたい」、「あなたにより良い変化をもたらしたい」という強い想いが、会員拡大の根底にはなくてはなりません。その想いが会員拡大を「運動」にし、「運動」だからこそ多くの人に共感を生むことができるのです。そのためには、JC の理念を理解し、強く発信できる人財が必要不可欠となります。2024 年度は、理念共感グランドデザインの 5 ヶ年計画の 4 年目を迎えます。これまでの 4 年間で再構築した理念教育システムを活用するとともに、JC の理念が体現化した運動や事業を広く共有することで、JC の理念を強く発信し、共感を生むことができる人財を育成していきましょう。

茨城ブロック内の会員数の推移をみると、この 5 年間で入会者数は、2018 年の 162 名から 2022 年の 208 名へと継続的に伸びています。一方、退会者数は 2018 年の 105 名から 2022 年は 113 名と数でみると変わりなく感じますが、会員数が減少していることを鑑みると、その割合は増加傾向にあります。また会員の年齢分布をみてみると、卒業まで 5 年をきったメンバーが全体の約 62% を占め、20 代のメンバーはわずか約 10% しかおりません。この傾向は近年継続しており、在籍年数が短くなっていることが読み取れます。この状況を踏まえると、茨城ブロック協議会は、理念が浸透した組織を目指していくとともに、退会者抑制支援とより若い世代へのアプローチが必要とされていることが分かります。

では、なぜ退会者は増え続けているのでしょうか。間違いなく私が入会した 11 年前よりも JC は活動しやすい組織へとなっています。仕事、家庭との両立への理解が深まり、JC 外の拘束される

時間も減ってきています。にもかかわらず退会者の割合は増え続けています。厚生労働省の若者層の早期離職の調査によると、もちろん「休日の少なさ」や「仕事上のストレス」が理由としてあげられていますが、それとともに「やりがいのなさ」や「成長が見込めない」が理由としてあげられています。これは JC にもあてはまるのではないのでしょうか。JC には、一見無意義に思えてしまうようなことが多々ありますが、実際その意義を理解すれば、その中には JC を JC たらしめている要素が詰まっています。意義を理解せずに多様性を追い求め、活動しやすい組織へと変革することは、その価値を失う可能性があります。私たちに求められていることは、活動しやすい組織への変革ではなく、JC の理念を分かりやすい形で言語化し、それを共感していただき、多くのやりがいを与え続ける組織になることではないのでしょうか。「しやすい組織」ではなく、理念に共感できる「入会したくなる組織」に、共感が連鎖する「続けたくなる組織」に、JC を「したくなる組織」にしていまいりましょう。

【魅力を伝える広報と魅力を創る交流】

ICT の急速な発展は、個人の情報発信力を増加させました。NTT コムリサーチの調査によると、約 8 割の人が商品やサービスを購入する際に「クチコミが気になる」と回答しているように、今では口コミや SNS など第三者による情報が、企業の信頼度に関わるようになってきています。これまで公式ホームページや紙媒体など既存のメディアが担ってきた役割が、SNS に移管しつつあるといえます。JC にとっても SNS は大きな武器となる可能性を秘めています。ホームページや紙媒体での一方的な情報の発信が、SNS を活用することで、ターゲットと接点を持つことが可能となり、直にコミュニケーションをとることが可能となります。しかし同時にそれは、誤った形での発信は直ちにマイナスブランディングになる恐れも秘めています。そのためにも、どのようなユーザー層に、どのような目的で発信するのかを明確に運用しなければなりません。2024 年度は、SNS を最も重要視する広報手段とするとともに、発信の目的を、「認知拡大」、「事業集客」、そして「エンゲージメント強化」の 3 つに分類し、それぞれの目的に合った SNS を選択することで、効果的で戦略的な広報を行い、広くその魅力を発信してまいります。

一方、対内的においても、様々なところで SNS やオンライン会議ツールが活用されています。その情報伝達力を活かし、今では、ほぼすべてのメンバーとの情報共有が可能となりました。しかし、JC における「友情」という観点では、その利便性がコミュニケーションを深める足かせとなっているように思えます。JC にとって、この「友情」というものの力は計り知れません。仲間という原動力があるからこそ、人に、まことに無条件で奉仕をすることができ、そして己を律し高めることができるのです。切磋琢磨しあう仲間の存在こそが、価値観と意識を変えうるのです。2024 年度は、LOM の垣根を越えた交流の機会を創り、友情の促進を図ることで、出向で得られるメリットを最大化させてまいります。

【ヒト・モノ・カネを育て、守る】

東京青年商工会議所の設立趣意書の一文に、「国内経済の充実であり、国際経済との密接なる提携」が我々青年の任務であり、「青年の持つ熱と力とを以って産業経済の実勢を究め、常に認識を新たにすること」でその責務を果たしていくと記載されているように、私たちは青年経済人として地域経済の牽引役となることが求められているのです。

日本青年会議所の定款にビジネスの機会が明記されてから 5 年が経過いたしました。しかし未だに「JC で金儲けする」のを悪だとしてらえている方が多いのも事実です。確かにビジネスの機会イコール仕事をもらえるということではありません。また社会的発展をないがしろにし、経済的発展を追い求めることは、JC の理念に反するものです。しかし、社会的発展と経済的発展は相いれないものではなくてあります。JC はどんな事業であっても、現状を分析し、目標に向けた計画をたて、その目標に沿った組織を運営し、得た成果を評価し、それをもとに改善します。これはまさにマネジメントといえないでしょうか。つまり経営を学べば JC の運動はより良くなるのです。また成長著しいアジアをはじめとした海外需要を積極的に取り込んでいくことは、ヒト、モノ、カネ、情報のグローバルな交流を生み、私たちが目指すダイバーシティ社会に近づくのです。JC だからといって経済的発展をないがしろにしてはなりません。積極的にビジネスの機会を追求することは、必ず地域に社会的発展をもたらすはずです。

また JC は災害被害を軽減する国民運動として社会から高い評価を得ており、その迅速で的確な復旧復興活動は地域から今後も期待されています。無条件の奉仕のもと活動している、そして自己を犠牲にできるようトレーニングをつんできた私たちは、もはや本能的に復旧復興のための行動に移ることができます。この尊い行動は私たちの誇りですが、同時に私たちは、次に人の命が奪われない社会の仕組みを創ることを忘れてはなりません。そこで注目するのが、災害レジリエンスです。災害レジリエンスとは、災害による人的、経済的、そして社会的被害を最小化し、いち早く回復できるようになることです。従来の一人ひとりの自助力を高めるとともに、地域企業及び団体を巻き込んだ共助力を高める取り組みを行うことで、いち早くヒト、モノ、カネの流れを回復することができます。JC が地域の牽引役となり、私たちの大切なまちの災害レジリエンスを高め、二次、三次被害による失わなくていい命を守っていきましょう。

【明日を立ち上げるブロック大会】

2024 年度 53 回目を迎える茨城ブロック大会は、茨城ブロック協議会が 1 年間展開してきた運動の集大成の場、最大の運動発信の場として開催されてきました。そして「地域益」「参加者益」「主管益」「主催益」「社会益」を追求することで、明るい豊かな社会の実現に向けた運動の指針を示してきました。

2024 年度は、日立の地にて茨城ブロック大会が開催されます。水戸藩 2 代藩主徳川光圀が「日の立ち昇るところ領内一」と称えたことが由来とされる日立は、長い歴史を物語る貴重な文化遺産、長い海岸線と豊かな山々に囲まれた穏やかな自然環境、そして日立製作所を中心とした HITACHI グループ関連の企業と共に発展してきた県北最大の市であります。しかし近年、製造業の海外移転や高付加価値工業製品への産業構造のシフトから新たな歴史を刻むための転換期を迎えています。だからこそ日立の地で開催するブロック大会には、大きな意味があります。転換期を迎えるまちから、新たな変化をもたらす地域益を生み出すことができれば、今後のブロック大会に大きな可能性をもたらします。新たな歩みを進めるまちに新たなレガシーとなる運動を興すことができれば、地域に長期的な発展をもたらすだけでなく、多くの LOM にとって気づきの多い共感できる大会となるはずです。またブロック大会の在り方も今の時代に合った形へと変化させる必要があります。これまで茨城ブロック大会は、より多くの 5 益を生み出すために、記念事業と本大会を異なる月に開催してきました。しかしながら近年の会員数の減少による人的及び予算的縮小により、その効果を発揮し難い状況になりつつあります。二つの事業をより密接なものとする中で、限られたリソースを有効に使い、シナジーを生み出しやすい、持続可能な今後の試金石となる大会としてまいります。

【むすびに】

人により良い変化をもたらすこと、まちをより良いものに変えることは、容易なことではありません。しかし、いくら思い描いていても何も変えることはできません。どんな小さく僅かな行動であっても、挑戦することのみが変化をもたらしてくれます。

挑戦は、あなたを傷つけることがあるかもしれませんが。しかしその痛みは、明日の成功への刺激となり、その傷は、挑戦したあなたにとっての誇りとなるはずです。

人を、まちをより良いものにしたいという JAYCEE としての強い気概をもって、挑戦への決断をしましょう。あなたの覚悟に共感する仲間が JC には大勢います。

勇気をもって明日への挑戦をしましょう。運命は勇者に微笑みます。